

O3-043

医教連携による小・中学生に対する「親となるための教育プログラム」開発

是松 聖悟¹、吉川はる奈²、安藤 聡彦²、細川江利子²、
寺菌さおり²、西尾 尚美²、関 由紀子²、齋藤 千景²

¹埼玉医科大学 総合医療センター

²埼玉大学

【背景】

子育ての悩みを解決することに困難を感じる父親、母親が増えている。それは時にネグレクト、虐待につながることもある。海外では、父親、母親になるための教育プログラムを実施している国もあるが、我が国では妊娠後の教室が中心である。少子化できょうだいも少なく、子育てに戸惑い悩むことは喫緊の課題である。

【目的】

小中学生を対象にした親となるための教育を開発中である。小児科医による授業を行い、その前後での児童の意識変化をみるとともに、2年目以降は過去に授業を受けた生徒と初めて受けた生徒との違いを解析し、この授業の短期効果を検証する。

【方法】

初年度は小学校6年生の一部のクラスに、2年目は中学校1年生に、3年目は中学校2年生にテーマを変えながら親となるための授業を各年1回実施する。初年度のテーマは「子どもの3時間毎の授乳で母親が寝不足となっている」とした。授業構成は導入、事例呈示(5分)、児童各自で考えた対策を記載(5分)、5-6人のグループに分かれての意見交換(15分)、発表し共有するとともに小児科医によるコメントと解説(10分)、最後に再度各自で考えた対策を記載(5分)とした。

【結果】

2クラス(計65人)が授業を受けた。各自で考えた対策は授業前後ともに、ほぼ全員が「子育てを協力する、祖父母や他人の助けを受ける」と回答したが、授業後は「一人で無理をしない」、「人に預ける勇気を持つ」、「周囲の人と日ごろから良い関係を作る」、「自分でリラックスできる工夫をする」、「メンタルを強くする」、「リモートワークなど効率的な仕事にする」などの意見もでるようになった。授業の感想としては、「将来のことを知ることができた」、「子育ての大変さが分かった」、「この時期にこのような授業を受けて良かった」、「結婚しないかもしれないし、子どもを持たないかもしれないけれど、初めて子育てのことを考えることができてよかった」などの声が寄せられた。担任からも「教員ではできない授業でためになった」との感想が寄せられた。

【結論】

小学6年生にとって、これまであまり知らなかった子育てを考える機会となった。親となってから生じうることを6年生なりにイメージし、他者と意見交換しながら考えており、将来の準備につながることを示唆された。このプロジェクトがネグレクト、虐待予防の新たな戦略となる可能性を示唆した。

O3-044

学校でのブコラム®口腔内投与を含むてんかん発作時の対応研修プログラムの構築 -特別支援学校養護教諭を対象とした効果検証-

小澤 典子¹、冨崎 悦子¹、宗 皓²、宮川 祥子¹、
吉岡 純希⁴、堀江 浩子³、神達 彩加³、出口奈緒子⁵、
添田英津子¹

¹慶應義塾大学 看護医療学部 ²医療法人財団はるたか会

³特別支援学校 都立花畑学園 ⁴SFC研究所

⁵静岡大学 教育学部

【目的】

てんかん発作は早期対応が重要となり、学校での対応が教職員にも求められている。2022年7月には内閣府等から、教職員が一定の条件下において、てんかん重積治療剤ブコラム®口腔溶液(以下ブコラム®)の投与が可能という通達が出された。しかし、教職員への支援は十分でない。本研究で、ブコラム®口腔内投与を含む学校管理下でのてんかん発作時の対応について知識と技術を習得し、実施する上での自信をつけることを目的としたプログラムを作成し、その効果を検証した。

【方法】

対象：東京都の特別支援学校の養護教諭とし、リーフレット配付でリクルート

調査内容：プログラム前後のアンケート調査

前：参加者の属性やブコラム®に関する認識など

前後：ブコラム®口腔内投与やてんかん発作時の対応に関する9項目を実施する自信(10段階のリッカート形式)

後：研修に関する6項目の満足度(10段階のリッカート形式)

分析：プログラム前後の自信の変化は対応のあるt検定、その他は記述統計を実施

研修プログラム：オンラインと対面のブレンド型

①オンライン：ブコラム®やてんかんに関する基本的知識と、発作時の連携等に関するオンデマンド動画2本を各自で視聴

②対面：ブコラム®の投与練習と、4~5名のグループで事例を用いた対応のシミュレーション演習と振り返り

【結果】

80名が参加を希望し、最後まで参加した者は76名、データが揃った41名を分析対象とした。プログラム前のブコラム®の認識は、知っているが練習経験がない(N=24)が最も多く、次いで、何か分かるが使用方法は知らない(N=6)、練習経験があるが自信がない(N=6)が多かった。

口腔内投与やてんかん発作時の対応の実施に対する自信は、プログラム前後で9項目全てが有意に上昇していた。特にブコラム®に関する項目は研修前後の差が大きかった。プログラムの満足度は6項目全てが平均8以上だった。

【考察】

プログラム前後で、ブコラム®の口腔内投与やてんかん発作時の対応の実施に関する自信が上昇していたこと、プログラムへの満足度が高かったことから、本プログラムは有用だと考えられた。今後は、プログラムの長期的な効果や、養護教諭以外の教職員に対する有用性について検討する必要がある。